

# 中国のスポーツ放送政策と スポーツ放送メディアの変容

## ——ネット時代におけるスポーツ文化の現段階

LIANG Xiang

中国における放送メディアはその誕生から政府の宣伝機関としての役割を果たしてきた。改革開放以降、市場経済の発展および情報通信技術の発達によって、中国の放送分野は他国と異なる様相を呈してきた。すなわち、中国の放送メディアの発展に関しては、その市場が拡大されつつも、政治体制のために多くの資源は中央テレビに占有されるという状況であった。しかし一方で、中国のスポーツ専門チャンネルも同時期に設立され、発展してきた。

中国のスポーツ放送事業は、政府のメディア、中央テレビ局(CCTV)が統制された政治に関わった情報の領域、また、その傘下のスポーツ専門チャンネルのCCTV5も含めて長期に渡ってその地位と資源を利用し、独占的な地位を占めていた。そして、2000年には国内外の重要なスポーツコンテンツの放送権に対して、中央テレビ局の優先買収権が政策的に規定された。この規制は2014年まで続き、CCTV5はこの14年間変わらずに中国スポーツ放送業における独占的な地位を維持してきた。2014年から、スポーツ産業改革を促進するためにスポーツ放送に対する規制が緩和され、スポーツ放送の経営形式、社会における役割、そして番組内容に大きな変化が起こった。

本研究では、改革開放以降の社会主義市場経済発展、中国スポーツ文化の変容、放送業の発展および政府のスポーツに対する認識という視点から、2014年のスポーツ放送に対する規制緩和に至る経緯に着目する。結果的にスポーツ放送事業は大きな変容を遂げたが、その過程は単純的に政策変化の結果を受け取り、政府の予想通りに発展してきたものではなく、政府も含め、メディア、資本および国民意識など複雑な関係が影響して変容に至ったことを解明した。